

令和7年度

立江小学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 基礎基本の定着とそれを活用する力を育成する授業の実践
- 話す力・表現する力をつける授業の実践

校長

大守 謙作

学力向上推進員

校長:大守 謙作 教頭:稼勢 浩子
 教務主任:森本千寿子
 学力向上・研修主任:横山利恵

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や、研修計画に教員からの定期的な報告を取り入れる等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能は身に付いている児童が多い。与えられた課題にもまじめに取り組める。 ●長文読解に苦手意識をもつ児童や、問題の意図をつかむことに課題がある児童がいる。	・単元テストや漢字テストで、クラス平均85点以上取ることができる。 ・「長文読解」や「書く」問題で、問題の意図をつかみ、取り組むことができる。	・何が書かれているかを捉えさせるため、教科書にアンダーラインや○印を入れさせる。 ・問題の意図をつかめるよう、問題をしっかりイメージしながら読ませる。 ・ケアレスミスを減らすため、しっかり見直す習慣をつけさせる。 ・新聞を活用した学習の時間(NIEタイム)を充実させる。 ・個に応じた授業を工夫する。	・学力テストやステップアップテストの結果を見ると、漢字や言語、計算などの基礎的な学力はだいたい身につけられている。しかし、文章や図表などの資料から必要な情報を読み取る力には課題が見られる。引き続き朝の活動やNIEタイムを充実させる。	・単元テストや漢字テスト、計算テストなどで全ての学年で平均85点以上を取ることができた。 ・個人では単元により苦手意識のある児童はいるが、全体的に力をつけている。 ・ケアレスミスを防ぐため問題にチェックをいれさせる取組が点数アップにつながった。	・問題の意図をつかむことに課題がある児童がいる。問題をしっかりイメージできるよう、図などを活用して読ませることや、○で囲む、線を引くなどの作業をしながら読ませることを続けたい。 ・習得した漢字を使えるよう、新出漢字の練習は、文字だけではなく文章で練習させることを継続する。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○友達の意見をしっかりと聞ける児童が多い。 ○課題に対して自分の考えや思いをもつことができる。 ●自分の考えや思いをもつことはできても、伝える力、相手意識をもって表現する力には課題がある。 ●家庭でのアンケートで、「読書をしていない」という児童が多い。	・自分の気持ちや考えを伝えあう楽しさを実感し、進んで発表できる。 ・相手意識をもって聞きやすい声で発言できる。 ・週に1時間以上、読書をする。	・2人組・グループ・全体で、様々な場で伝えあう場面を授業に取り入れる。 ・自分の考えを伝えあう楽しさを実感できる授業を工夫する。 ・ホワイトボードやICTを効果的に活用した発表や話し合い活動をさせる。 ・何でも言い合える学級づくりをする。 ・週末読書や親子読書の機会を設けたり、市立図書館と連携したりして、本に親しませるようにする。	・「話す力」「表現する力」には依然として課題が見られる。項目を整理しながら話す、相手に伝わるように話すなどの機会を増やしていく。 ・読書の機会をさらに増やし、語彙を豊かにできるように心がける。	・少人数から、伝え合う場面を授業で積極的に取り入れることで、発表を進んでする児童、話し合いを楽しめる児童が増えてきた。 ・高学年では、根拠をもとに自分の意見を言える児童が増えてきた。 ・市立図書館と連携し、定期的に児童の興味のある本を教室に置くようにしたことで、読書に興味をもつ児童が増えた。	・次年度も伝え合う場面を意図的に授業の中に作っていく。 ・進んで発表できる児童は増えてきたが、相手意識をもって話すことには、やはり課題がある。話すことを整理して、順序立てて、など、分かりやすく伝えるよう意識させる。 ・集会活動をさらに充実させ、大勢の前で発表する機会を増やす。 ・読書に興味をもつ手立てを積極的に行う。家庭への啓発もあわせて行う。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題にはまじめに取り組む、できるまで努力することができる。 ●自分から課題を見つけ、よりよくしていこうという能動性・主体性には課題がある。	・各教科の学習に主体的に取り組むことができる。 ・自主学習ノートノートに意欲的に取り組み、自ら学ぶ楽しさを実感する。	・楽しい授業・熱中できる授業を工夫する。 ・掲示板等で工夫している自主学習ノートのモデルを示す。 ・地域の人材を積極的に活用し、多様な学びができるようにする。 ・縦割り班活動や係活動で、主体的に活動できる場を設定する。	・地域の人材を活用し、多様な学びができていく。さらに充実させたい。学ぶだけに終わらず、学んだことをみんなでも伝え合う等の活動も充実させたい。 ・縦割り班活動で、月に1回、子どもたちで考えて遊ぶ機会を作ったことが子どもたちが相手意識をもち主体的に活動できることにつながっている。 ・集会活動で、前に出て演技したり、発表したりする機会が増えた。子どもたちの自信につながっている。	・自主学習では、子どもが自ら取り組んだことをほめることにより、継続してできるようになった。進んで学習できる子どもが増えた。 ・外部人材の活用は本物に触れる体験につながり、子どもの「やってみたい」という知的好奇心を伸ばすことができた。 ・総合で子どもの興味関心のある課題をとりあげたことが自主的な学びにつながった。 ・自分で課題を見つけて進んで学ぼうとする力は、まだ十分ではない。	・子どもが興味をもち、熱中して取り組めるような課題を設定するよう心がける。 ・外部人材の活用で学んだことを、他の学年に伝えるなど、次の発展学習へと繋げるようにしていく。 ・自主学習ノートに積極的に取り組む具体的なシステムをつくる。 ・特活を切り口に、縦割り班活動を主体的な活動にしていく。 (例)縦割り班で企画・準備・運営をする活動をするなど。